

動乱の世を駆け抜けた

英傑たちの<ドラマ>をイッキ見

大河ドラマの企画委員が監修！とにかくわかりやすい 『地図でスツと頭に入る 幕末・維新』発売

～地図を軸に幕末の<重大事件>を読み解いていく～

株式会社昭文社ホールディングス（本社：千代田区麴町、代表取締役社長 黒田茂夫、東証コード：9475）とその子会社である株式会社昭文社（本社：千代田区麴町、代表取締役 清水康史、以下昭文社）は、エンターテインメント企画本『**地図でスツと頭に入る 幕末・維新**』を、2020年10月21日より発売しますことをお知らせいたします。

あらゆる歴史を地図やイラスト、写真を交えて紐解く「スツと頭に入る」シリーズの最新作は、日本史における重大な転換点となった幕末・維新を取り上げ、様々な地図・図解、さらにリアルなCGイラストを用いて、複雑な時代の流れ、幕末の重大事件をわかりやすく読み解いていく一冊となります。

)) 本書の特長 ((

幕末から明治維新に至る日本史は、日本が近代国家へと生まれ変わる過渡期にあたる魅力的な時代。その一方、それまでの日本史に比べて登場人物が増え、幕府に朝廷、薩摩・長州、土佐、会津などの諸勢力が離合集散を繰り返すたびに、尊王攘夷、公武合体など様々な思想が乱立するなど、複雑な時代でもあります。

激動の幕末史を理解するために、本書には、

|| **ペリー来航から西南戦争に至る幕末維新期の重要事件を地図や図説を切り口にスッキリ整理。**序章の早わかりとキーパーソン紹介を併せて読むことで、人物の関係性から出来事の原因・背景まで関連づけながら理解を深めることもできます。

|| **多角的な視点から歴史上の出来事を捉える。**主な出来事を簡潔にまとめた要約文のほか、「**その頃世界は？**」「**歴史の現場**」「**社会と文化**」といった多彩な解説も加えています。同時代の世界の動き、現代に残る史跡から見えてくる幕末史は、よりリアルに、立体的に感じられます。



<表紙>



<「西南戦争」ページ例>

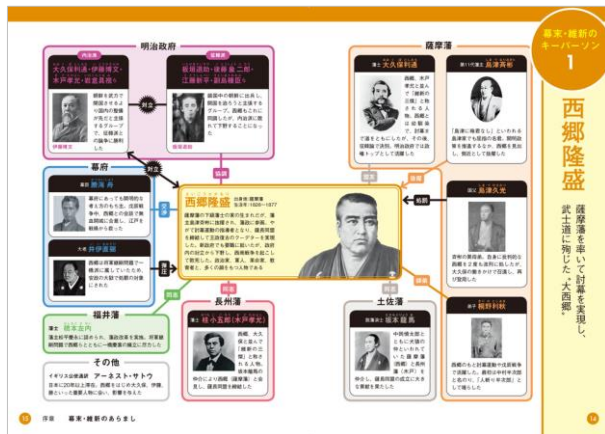


<CGイラストのページ例>

【リリースに関するお問合せ】 株式会社 昭文社ホールディングス 広報担当：竹内、張
TEL：03-3556-8124 | FAX：03-3556-8164

昭文社ホールディングスホームページ

<https://www.mapple.co.jp/>



＜「幕末・維新のキーパーソン」ページ例＞



＜「1853年黒船来航」ページ例＞

)) 大河ドラマの企画委員が監修 ((

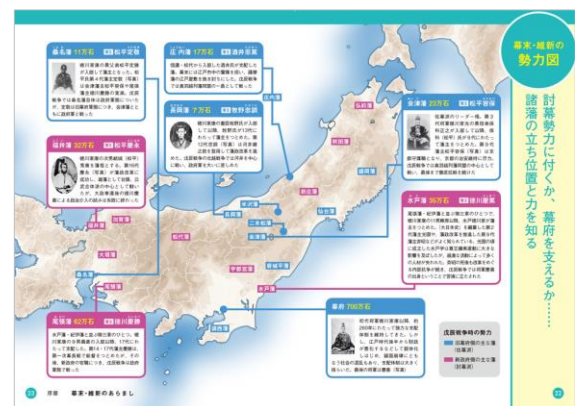
本書の監修を担当したのは、『新選組！』『龍馬伝』『西郷どん』など、数多くの大河ドラマの企画委員を務めた、幕末維新史研究第一人者の木村幸比古氏。最新の研究成果を織り交ぜた、日本の変革期を知るために最適な一冊に仕上げています。

)) 主な内容 (抜粋) ((

- || 序章 幕末・維新のあらまし
幕末・維新早わかり | 幕末・維新のキーパーソン
幕末・維新の勢力図
- || 第1章 黒船の来航、日本の開国
鎖国の終わり | 松下村塾開塾 | 安政の大獄
- || 第2章 吹き荒れる尊王攘夷の嵐
桜田門外の変 | 新選組誕生 | 下関戦争
- || 第3章 崩れゆく江戸幕府
薩長同盟 | 大政奉還 | 箱館戦争
- || 第4章 明治維新という名の日本の夜明け
版籍奉還 | 殖産興業 | 土族の反乱
- || コラム
尊皇・攘夷・開国・佐幕…どこがどう違うのか
幕府と朝廷はどのような関係にあったか？
幕末日本の経済状況はあまりにもヒドかった！
兵器の近代化が明治維新を後押しした

)) 商品概要 ((

商品名 : 『地図でスツと頭に入る 幕末・維新』
体裁・頁数 : A5判、本体128頁
発売日 : 2020年10月21日
全国の主要書店で販売
定価 : 1,200円+税
出版社 : 株式会社 昭文社



＜「幕末・維新の勢力図」ページ例＞

コラム 3 幕末・維新の理解を深める！

幕末日本の経済状況はあまりにもヒドかった！

日本経済は1990年代前半のバブル崩壊以降、長く低迷を続けているが、幕末の日本人も同じく、それ以上に苦しい生活を強いられていた。その原因は諸外国と交易がはじまったことである。

幕府の大老伊藤博文がアメリカを主とする5ヶ国と通商条約を締結すると、輸出が拡大して米などの生活必需品が足りなくなった。また日本と外国の金貨は価値が異なり、外国人が安く手入れた金貨を海外へ大量にも出したため、国内の貨幣価値が低下した。その結果、物価が急騰。米の価格に達っては10年間9割に、そのほかの品物も値上がり続けた。さらに自由貿易ということで、地方の豪人が豪富を露骨に誇ったせいでも江戸や大阪などの大都市に豪富が入らないという現象も起こった。

こうして多くの人々が生活に困ると、その怒りの矛先は外国人や幕府に向けられることになったのだ。

開港後の貿易状況と米価の動き

＜コラム代表誌面＞